

株式会社 ファミリーマート 御中

タイ王国
子どもの水の事故防止のための教育推進事業

完了報告書(2017年9月～2018年8月)



2018年11月
公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



1. 事業概要

事業名	子どもの水の事故防止のための教育推進事業
対象国・地域	タイ王国 バンコク市
事業期間	2017年9月1日～2018年8月31日
報告期間	2017年9月1日～2018年8月31日
予算	25,561,077 円
受益者	直接裨益者：300人(生徒250人、教師及びボランティア50人) 間接裨益者：5,000人
事業目的	水の事故防止に関する啓発・学習教材を開発し普及させ、また、子どもたちが水難に備えた泳法を習得する

2. 活動の背景

世界保健機関(World Health Organization: WHO)によれば、水による事故(溺死等)はタイにおける子どもの死因のトップとなっており、年間約2,700人もの子供が犠牲になっています。また、そのうち半数以上が5歳以下の子どもです。水資源に恵まれているタイには、海や川、池、水路等が至る所に存在しており、子どもたちは日常的に水遊びなどを通して水に親しんでいます。このような環境は小さな子どもたちにとっては脅威ともなりえます。また、タイは洪水、熱帯性低気圧、サイクロン、そして津波等の自然災害の被害も受けやすい国でもあります。一方、15歳以下の子どもの3人に2人は泳げないと言われています。

セーブ・ザ・チルドレン・タイ事務所では、子どもたちが安全に暮らせる社会づくりに貢献するため、子どもの水の事故防止対策の推進にいち早く取り組み、これまでに、南部のパンガー県とバンコクにて、子どもの水の事故防止のための啓発活動や、水難に備えた泳法指導を実施してきました。

2016年から2017年にかけてバンコクで実施した先行事業では、子どもたちの声を取り入れながら水の事故防止のための教材を開発し、普及させることによって、子どもたちが水の事故を予防できるようになることを目指しました。また、バンコク市内の2つの小学校において、子どもたちが事故に遭わないようにするための泳法の訓練や救助法の実践練習も行いました。事業を通して制作された教材は、パンガー県の学校でも使用され、またアニメーションは公営テレビで放映されています。この成果を踏まえ、2017年から2018年にかけては、さらにバンコク市内の5校において、水難に備えた泳法訓練、救助法の実践練習を行いました。また、それぞれの学校において、教師たちが中心となって水の事故防止のための活動を実施しました。

この5校の合計生徒数は4,284人(女児1,852人、男児2,432人)であり、先行事業で実施した2校も含めると、2年間で6,446人(女児2,884人、男児3,562人)にのびります。

3. 事業対象校

事業対象となる学校は、子どもの保護センター、OBEC(the Office of Basic Education Commission＝タイ教育省基礎教育局)および教育省から選定基準について助言を受けた上で、以下 3 点を基準にバンコク都教育サービス局とともに対象校を選定しました。

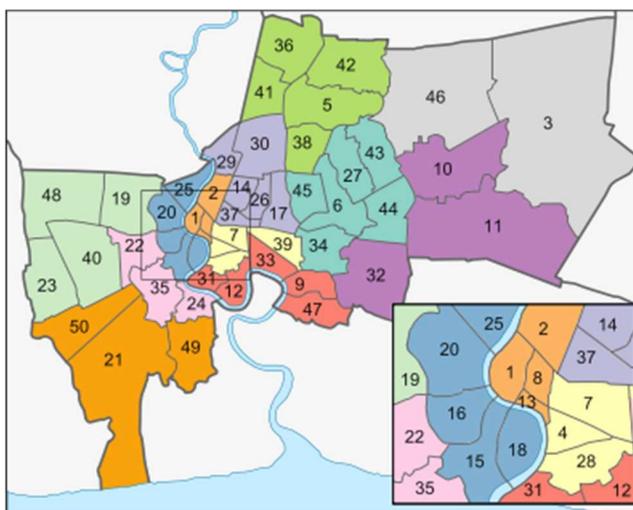
- ① 学校側に事業に対する関心と意欲がある
- ② ニーズ(運河に近いなど、環境的に水難のリスクが高い)
- ③ 学校側に、事業に協力して参加し、また将来的に活動を継続させていく能力がある

Rachawinit 小学校については、学校内にプールがあり、泳法訓練のために他の 4 校を受け入れることに積極的であったために、選ばれました。

表 1:事業対象校リスト

学校名	地域
Anuban Wat Parinayok	Phra Nakhon [1]
Rachawinit	Dusit [2]
Dipangkornwittayapat	Dusit [2]
Wat Sommanas	Pom Prap Sattru Phai [8]
Watwetawanthummawat	Bang Sue [29]

図 1:バンコク市内における対象校の位置



4. 活動と成果

活動 1:ピア・モデリング手法¹や大人による適切なサポート、子どもにとって親しみやすい活動を通じて、小学生、保護者、そして地域社会に対して、子どもの水の事故防止のための啓発活動を行う

1.1: 子どもの水の事故防止のための絵画と物語づくり

水の事故防止のための活動がそれぞれの学校で継続的かつ自主的に行われるようになることを目指し、6月に教師を対象としたワークショップを実施しました。2日間のワークショップには、本事業に参加している5校および、先行事業に参加した2校(Suan Bua 小学校、Phayathai 小学校)から合計28人の教師(女性16人、男性12人)が参加しました。参加した教師たちは、救助方法についての技術や知識を教えあったり、どのように学校の授業や活動に取り入れていくかについて意見を交換しました。

¹ ロールモデルとなる他の生徒の行動などから学ぶ手法

<参加した教師の声>

“他の学校とこうして合同で活動する機会は貴重です。相談する仲間もできました”

“このワークショップで、私は、子どもたちにどのように命を守るかを教えることの大切さを理解しました。私はダンスの教師ですが、水の事故防止の活動を私の授業にどのように取り入れられるか考えたいです”

“私の学校にはプールがないので、子どもたちに泳ぎ方を教えることはできませんが、水の事故の予防方法について話すことはできます。このワークショップで、今後子どもたちにどのように教えていくかについて、より明確に計画できるようになりました”

1.2: 生徒に対する、水の事故防止と学校安全のための学習の実施

上記ワークショップの後、教師たちが中心となってそれぞれの学校における活動計画書を提出し、各学校でそれらの活動を実施しました。事業は、その実施に必要な経費を支援しました。各学校における取り組みは以下の通りです。

Dipangkornwittayapat 小学校

- 水の事故防止についての粘土工作、物語づくり、啓発ポスター作り



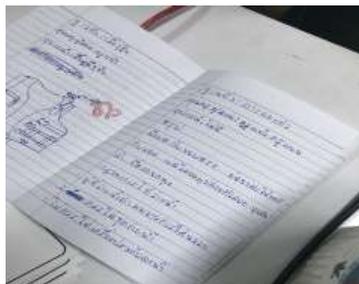
Anuban Wat Parinayok 小学校

- 救急法のトレーニング
- 心肺蘇生法のトレーニング



Wat Sommanas 小学校

- 課外活動内での救急法講習
- 泳法訓練の振り返りワークショップ
- 習得した知識を絵で表現するワークショップ



Rachawinit 小学校

- 水難に備えた泳法訓練
- 泳法訓練の振り返りワークショップ
- 習得した知識を絵で表現するワークショップ



Watwetawanthummawat 小学校

- 課外活動内での救助法訓練



Phayathai 小学校

- 学校行事における救助法訓練



Suan Bua 小学校

- 水難に備えた泳法に関する演劇(写真は演劇のストーリーを表現したイラスト)



活動 2: 小学生に、水資源からの身の安全を守る方法を教授する

2.1 教師に対する、水難に備えた泳法の指導者研修

タイ・ライフセービング協会(Thai Life Saving Society : TLSS)の協力を得て、3月14日から16日にかけて教師に対する指導者研修を実施し、事業対象校から合計26人(女性12人、男性14人)の教師が参加しました。

この研修は、教師が水上安全や水難に備えた泳法、救助法などを子どもたちに教えられるようになることを目的としており、心肺蘇生法、救命ジャケットの着用方法、ロープや水に浮くものを使った救助方法、さらに水の中で救助を待っている間の姿勢も含めた泳ぎ方などについて学びました。

研修の後、参加した教師たちは、それぞれの学校の生徒たちに対しどのように水の事故防止のための知識を伝え、また泳法訓練を実施するかについての計画を立てました。教師たちは自分たちの学校における活動についての情報を共有することで、他校の経験からも学ぶようになりました。

2.2 生徒に対する、水難に備えた泳法訓練の実施

バンコク都教育サービス地域局の合意のもと、事業対象校5校の子どもたちに対し、3月から6月にかけて合計18時間の水難に備えた泳法訓練を実施しました。3校に対しては3日間の講習会、残りの2校に対しては6週間にわたるコースを実施し、合計400人の子どもが参加しました。

3 日間の講習会 (Anuban Wat Parinayok 小学校、Wat Sommanas 小学校、Rachawinit 小学校)

下表の概要の通り、Rachawinit 小学校にて子どもたちに対する泳法訓練を行いました。研修を受けた Rachawinit 小学校の教師は、両方の講習会において子どもたちの泳法訓練をサポートしました。

	第 1 回	第 2 回
期間	3 月 19-21 日の 3 日間(各日 6 時間)	3 月 26-28 日の 3 日間(各日 6 時間)
参加校	Anuban Wat Parinayok 小学校 Wat Sommanas 小学校	Rachawinit 小学校
参加者数	4、5、6 年生の 45 人 (女児 27 人、男児 18 人)	4、5、6 年生の 67 人 (女児 21 人、男児 46 人)

講習会の内容は、以下の通りです：

1 日目：【講習】水の事故の問題について

【実技】ロープや水に浮くものを使った救助訓練、救命ジャケットの着用方法、心肺蘇生法

2 日目：【実技】水難に備えた泳法訓練

3 日目：【実技】水難に備えた泳法訓練

この講習会の実施にあたっては、教師たちがセーブ・ザ・チルドレンのスタッフの協力を得ながら計画を立てました。また、各日の終わりに、教師がその日の振り返りとまとめを行いました。また、3 日間の講習では、生徒たちは「Alert Little Tun」のアニメーションを観て、水上安全に関する重要なメッセージを学びました。

<参加した生徒の声>

“ロープと袋を使った救助訓練は、役に立つと思いました。来週、お母さんと海に行くのですが、万が一溺れている人がいた時のために、ロープを持って行くようにします”

“泳ぐことは好きなのですが、これまで水に浮くことはできませんでした。でもこの講習会で、先生が丁寧に水の中での浮き方を教えてくださいました”

“私はお母さんに、この講習会は集中してしっかりと受けるようにと言われました。泳げるようになったら、溺れる事故を防ぐことができると思います”

“私の通う学校にはプールがないので、これまで泳ぎ方を教わったことはありませんでした。プールを使っの初めての講習なので、とても楽しく受けることができます”

6 週間のコース (Watwetawanthummawat 小学校、Dipangkornwittayapat 小学校)

その他の 2 校 (Watwetawanthummawat 小学校、Dipangkornwittayapat 小学校) は、連続した終日の講習会ではなく、各日短時間、かつより多くの日数に分けてスケジュールを組み、活動を実施しました。

	Watwetawanthummawat 少学校	Dipangkornwittayapat 少学校
期間	5月22日からの毎週1日 x6週(各日3時間)	5月24日からの毎週1日 x6週(各日3時間)
参加者数	6年生の230人(女児105人、男児125人)	4、5、6年生の58人(女児24人、男児34人)

泳法訓練においては、学習能力障害のある子どもや自閉症の子どもたちも、上手に泳ぐことができるようになりました。教師によれば、これらの子どもたちは興味があることに対する高い集中力を持っているとのことでした。

<参加した生徒の声>

“私の両親は、水の事故に遭わないための泳法を学ぶことは良いことだと言っていました”

“私は泳ぐことはできますが、水に浮いていることはできません。長時間浮くことができるようになりたいです”

活動3:タイにおける水の事故防止のための対策を推進する

3.1 水の事故防止と学校安全に関する IEC (Information Education Communication = 情報・教育・コミュニケーション) 教材の制作および普及

タイの国営放送局である Thai PBS とセーブ・ザ・チルドレンは、長く協力関係にあります。これまでに、水の事故防止のメッセージを伝えるアニメーション、“Alert Little Tun”を制作し、Thai PBS で放送してきました。本事業期間の2018年1月から3月までに放映された分の推定視聴者数は、3,065,400人にのぼります。また、2019年3月、学校が長期休暇に入り、子どもが水の事故に遭う危険性が高まる時期に、本事業で新しく制作した“Alert Little Tun”の新しいエピソード(活動3.3参照)が放映されることになっています。

3.2 事業振り返りワークショップおよび展示会(ギャラリーウォーク)の実施

<事業終了イベント>

8月4日には、本事業に参加した5つの学校に加え、先行事業に参加した2校のあわせて計7校が、Rachawinit 小学校において、事業の成果を披露するイベントを実施しました。イベントには、各校を代表して、合計205人の生徒(女児102人、男児103人)と、50人の教師が参加しました。また、バンコク都教育サービス地域局の副代表や、学校長なども参加しました。生徒たちは、泳法訓練で習得した救命ジャケットの着用方法、ロープや空のペットボトルなどを使った救助方法、長い棒などを使って救助する際の正しい姿勢などをプールで披露しました。また、それぞれの学校において実施した水の事故防止のための啓発活動について紹介しました。イベントには、株式会社ファミリーマートおよびセントラルファミリーマートの方にも参加いただきました。

<事業振り返りワークショップ>

事業終了にあたり、8月末に、7つの学校から教師を招いて振り返りワークショップを実施し、良かった点や改善が必要な点を含め、活動に対する意見を出し合いました。特にうまくいったこととしては、啓発教材をそれぞれの学校で作成したことや、教師同士で知識を伝えあうなど学び合いができたことが挙げられました。また、改善すべき点として、障害のある子どもなど特別なニーズがある子どもへの対応や、子どもの水泳スキルが異なる場合の教え方などが挙げられました。

3.3 水の事故防止のための“Alert Little Tun”アニメーションの制作

本事業で制作した新しい13本のエピソードは、幼少期の子どもとその保護者に焦点を当てています。セーブ・ザ・チルドレンは、パンガー県で幼稚園児を対象に水の事故防止のための活動をしており、この活動で“Alert Little Tun”のアニメーションを使用しました。アニメーションを観た幼稚園の子どもたちからは、以下の声が寄せられています：

<子どもたちの感想>

“池の近くには行ってはいけません。なぜなら、落ちたらお父さんとお母さんに会えなくなってしまうからです”

“池に落ちたボールを拾おうとしてはいけません。お母さんに拾ってもらうように頼みます”

“もし両親が一緒でなかったら、海には行きません。子どもは、海では両親がいるところで遊ばなければならぬのです”

このアニメーションには、タイ語と英語の2か国語に加え、聴覚に障害のある視聴者を考慮し、手話を取り入れています。Thai PBSは、このストーリーを2019年3月から6月にかけて放映する予定です。

3.4 OBECとのアドボカシー

<E-Learningコースの開発>

4月23、24日、教師の防災に関する知識を向上させ、学習環境における子どもの安全を向上させることを目指して、セーブ・ザ・チルドレンがタイ国内で実施する交通安全事業、防災事業と本事業の3つの事業が合同で、「子どもの安全について学ぶ参加型ワークショップ」を実施しました。2日間のワークショップには事業対象校5校の25人の教師が参加し、自然災害とリスク・アセスメント、安全な環境とインフラ設備、教育環境における災害管理、防災教育などについて、E-Learningシステムを通して学びました。また、災害管理に関するゲームや水の事故防止のために必要な技術の紹介なども実施しました。

このワークショップは、OBECのE-Learningコースを使用して実施され、参加者からの意見は、OBECに共有されます。このE-Learningコースは、タイ全国の教師が、学校環境におけるリスク調査や災害管理についての技術と知識を身につけることを目的としています。

<水の事故防止教育の推進>

バンコクとパンガー県における2つの水の事故防止事業は、それぞれのイベントやワークショップにおいて、水難に備えた泳法を全国で推進するよう教育省に対して働きかけてきました。子どもたちや教師、保護者だけでなく、TLSS チーム、タイ赤十字スタッフ、パンガー県知事、バンコク都教育サービス局副代表などの声も届けました。OBEC は 2019 年 3 月に水の事故防止のカリキュラムを改編する予定ですが、セーブ・ザ・チルドレンはそれに合わせてさらに働きかけを行っていきます。

5. 収支報告

項目	予算(円)	支出(円)
活動 1	3,390,750	2,294,334
活動 2	2,425,500	2,837,894
活動 3	1,534,045	1,533,414
モニタリング・評価	1,188,000	976,262
調査及び文書作成(タイ教育省とともに実施)	660,000	563,567
現地サポートスタッフ人件費	6,425,008	8,037,015
活動運営費(移動費、現地事務所サポート費、通信費、モニタリング費、報告書作成費等)	4,825,559	4,206,376
東京本部管理費	5,112,215	5,112,215
合計	25,561,077	25,561,077

6. 活動写真



先行事業でつくった啓発教材で学ぶ子どもたち(2018年2月13日)



教師に対する指導者研修で、心肺蘇生法を学ぶ教師(2018年3月14日)



学校のプールで、ロープを使った救助法について学ぶ教師たち(2018年4月15日)



長い棒を使った救助法についても学びました(2018年4月16日)



“Alert Little Tun”のアニメーションを観て、水の事故防止について学ぶ子どもたち(2018年3月19日)



水の事故が起こる危険がある場所について話し合う子どもたち(2018年5月22日)



水難に備えた泳法訓練の様子。ピア(仲間)とともに学ぶことが、良い刺激になります(2018年3月21日)



救命ジャケットを着用して泳ぐ練習をする子どもたち(2018年3月21日)



事業終了イベントでは救助法を披露しました(2018年8月4日)



ロープとポリ袋を使った救助法を実演する子どもたち(2018年8月4日)



救助グッズをつくるには、ロープの結び方も重要です(2018年8月4日)



事業終了イベントの記念のバッグを贈呈され、笑顔の子どもたち(2018年8月4日)



事業終了イベントでは、子どもたちが描いた水の事故防止のためのポスターが展示されました(2018年4月8日)